



浄土真宗本願寺派 慈雲山龍溪寺 奏庵

2015.1.20 発行

kanadean

No. 262

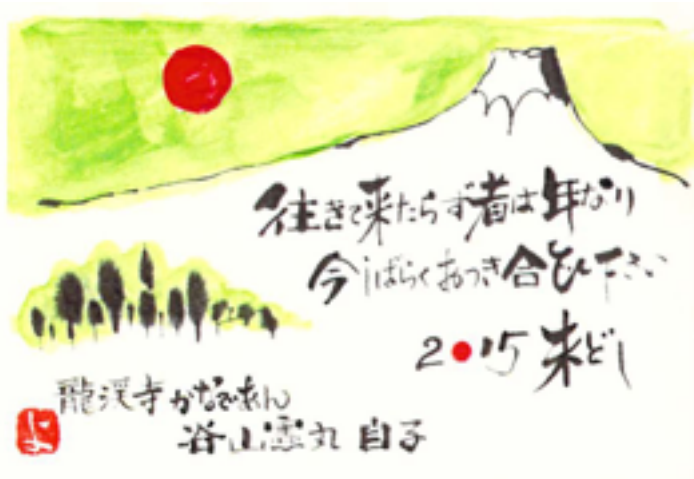
かなであん

249-0002 逗子市山の根1-7-24

Tel : 046-871-1863 Fax : 046-872-3485

[http:// kanadean.net](http://kanadean.net)

mail: ryukeiji@kanadean.net



2015年 利口になろうと ”あくせくせずに”

”戦後70年”、”節目”といわれる年がスタートしました。

戦勝国といわれる国々では、盛大に「祝う」催しが計画されていると伝えられています。終戦記念日を祝って迎えることの許されない日本は、何より次世代に二度とこのような辛い思いや戦争を繰り返さないよう、真に意味ある節目にしたいものです。

* * *

平成天皇の年頭のお言葉にも、近隣諸国から問われている「歴史認識」に真摯に取り組まなければならないとありました。有史以来絶えることのない戦争は、その時代時代の現実的な問題を有利にしようとはたらく人間の心なしには起こりません。

歴史認識を問うならば、まず、その人間というものが問われなければならないと思うのです。

戦争は、その時を生きる人間が始めたものであり、そのお互いが、都合の良い正義、自分こそが正しいとする善悪を主張し続ける限り真の解決はなく、同じ民族の中でさえ憎しみや争いがあるのですから、たとえ世界中が同じ価値観や宗教観をもったとしても、完璧な争いのない世界が実現するのは不可能だと思われまふ。しかし、戦争を終息させてきたのも人間の叡智です。人類もこの宇宙の中の生命の地球に生かされて生きているという原点への立ち返りです。そこには、優劣も上下もない、生きとし生けるものすべての「いのち」の尊さを思いやる心があるはずでふ。

* * *

親鸞聖人がその生涯を徒して

お示し下さった「悪人正機」のみ教えは、自分自身の真の姿に真正面から向かい合うことなしには至りつけない浄土真宗の根本思想です。自分自身の愚かさに気づいて、一切衆生を救うことを誓い願いとした阿弥陀如来の本願に、「平等覺に歸命」し「有無をはなる」み教えなのです。

お念仏のみ教えは、私たちが人を憎んだり軽んじたりするときに、そんな愚かな私も、私が憎いと思っている相手も、平等に救ってやりたいと思っておられる仏さまがいてくださることを気づかせてくれます。私も私の憎む相手も同じほとけの慈悲の中に生かされているのです。そのことをよくよく自覚することができれば、「有無」が気にならなくなるのです。それが仏教者の生き方であり、私のいのちを生かしてきてくれたすべてのもの、多くのいのちのおかげと頷けるのです。

お念仏は、憎しみや怒りなど、煩惱のあるがまま、そんな私が仏さまの大慈悲に包まれている、その気づきを「ありがたい」と味わえるみ教えです。

今、世間は、利口でなければ他から軽んじられ、バカにされ、騙され、損をするbっっっつとあくせくさせているように思えます。

新しい年は、またゼロ（愚）からのスタートです。どうぞお聴

奏庵初法座

日時
1月26日(月)
午前11時より

「真宗宗歌」
正信偈
法話
ご文章拝読
「恩徳讃」
～*～
おとき

『身を捨てて平座にてみなと同座するは、聖人の仰せに、四海の信心の人はみな兄弟、と仰せられたれば、われもその御ことばのごとくなり』

お念仏の仲間、みな等しく御同行御同朋であり、膝を突き合わせてお味わいを語り合うことが大切だと親鸞聖人がおっしゃったように…。話すことを大切にされた蓮如上人の言葉です。

奏庵法座も共々に語り合ってお味わいを深めていく法座でありたいと願って勤めてまいります。平成27年度の初法座です。本年も宜しく、どうぞお参り下さい。



年回忌法要表

年回忌	没年
1周忌	平成26年
3回忌	25年
7回忌	21年
13回忌	15年
17回忌	11年
23回忌	5年
(25回忌)	3年
27回忌	平成元年
33回忌	昭和58年
37回忌	54年
50回忌	41年

先月号に誤りがありましたので訂正いたします。

仏法をあるじとし、世間を客人とせよといへり。仏法のうへよりは、世間のことは時にしたがひ相はたらくべき事なりと云々

蓮如上人



花の香りは風にさからわず、芙蓉、梅檀の香りも。徳香は風にさからって薫ず、徳人はあまねく香を聞かしむ。

法句経

今《バンクーバーの朝日》という映画が上映されている。テレビに予告が流れ、特集番組があったりしたので、記憶にある方もおられるだろう。これは、戦前のカナダに実際にあった「バンクーバー朝日軍」という日系人野球チームをもとにした物語だ。■封切りとともに観てきたが、私が知る彼らより暗く深刻に描かれていたのは残念だった。私が駐在していた頃には、選手だった人、ファンだった人たちも多くが健在で、特に女性たちが話す日系二世の青春時代は、同じ時代戦争に向かっていた日本にはない自由を感じ眩しく思えたものだ。■あの年代だから白人至上の差別も、勤勉に働きすぎる日系人への排斥暴動もあったが、新天地を求めた彼らにとっては苦労や屈辱ばかりではなく、特にカナダで生まれ教育を受け育った二世にとっては、家庭を築き生きていく信頼する母国だった。■そこにパールハーバー奇襲から勃発した戦争が彼らを敵性外国人にしまったのだ。その日を境に、築き上げた仕事、家、家財、生業の船や機械などのすべてが没収され、収容キャンプに閉じ込められた。同じ連合軍のドイツやイタリア系はそのまますまを許されていたことを思うと、今もって日本だけが戦後処理から上手く解放されない「どうしようもない何か」を思う。■「バンクーバ朝日軍」が伝説になったのは、いわゆるスモールベースボールと、白人有利なアンフェアなジャッジも受け入れ、無心に楽しんでプレーし勝ち進んでいく姿からだ。彼らには英語の方が楽になっても日本語でしか表せない感情があった。それらは「おかげさま」であり、「もったいない」であり、現実を受け入れる前向きな「しかたがない」もあった。■特集番組に度々登場した92歳になる唯一の生き残り選手は、堪能な英語と日本語で我々のカナダ生活を助けてくれた良き友だ。広島から移民としてカナダに渡った親から彼へ、子へ孫へと繋げてきた人生は、謙虚であっても卑屈ではなく、何よりもめげず大らかで、そこにはいつもお念仏があった。 Norimaru